

第19回Wリーグ プレーオフ《クォーターファイナル》

勝利チーム ヘッドコーチコメント要旨



デンソー アイリス

(レギュラーシーズン 2 位)

■小嶋 裕三 ヘッドコーチ

Q. クォーターファイナルの戦いを振り返って

A. 対戦相手となったトヨタ紡織は同じ本拠地(愛知県刈谷市)ということもあり常に意識し合っているのでやりづらい相手でした。トヨタ紡織はサイズこそ小さいですがよく動くチームです。我々の大きな選手や若い選手がどれだけ相手の運動量についていけるかというところがポイントでしたが、良い時間帯と悪い時間帯がはっきりしたような展開でした。良いときにはデンソーの持ち味が出せたと思いますが、終盤など相手のペースに持っていかれる時間帯もあったのでそのあたりは反省点になると思います。

Q. 短期決戦となるがどのような準備をして臨むか

A. (対戦相手となる)トヨタ自動車はタレントが揃っていますし、シュート力もあるチームですから、いかにチームで守れるかということに尽きると思います。チームで守るにはまず個人がしっかり守らなければいけないということです。セミファイナルまでくればもう新人もベテランも関係ないので、デンソーの若い選手たちがどれだけ日本代表クラスの選手たちに食らいついていけるかということかと思っています。

Q. 自身のチームで期待している選手は

A. 大黒柱の#8 高田にはもちろん頑張ってもらいたいと思いますし、若手の#15 稲井、#88 赤穂(ひ)、#12 赤穂(さ)に関してはもうちょっとやってもいい、今の段階ではもう少し出来てもよいと思うので、期待値を込めてセミファイナルでは今まで以上の活躍をしてもらいたいと思います。

Q. セミファイナル/ファイナルに挑む意気込みは

A. 率直に言いますと、レギュラーシーズンをまさか2位で通過できるとは思っていませんでした。下手をすればもっと下になってしまうので、一時は6位、7位狙いで行こうということも考えていたくらいでした。ただ、開幕後に予想以上に若手が頑張ったのでチームとしての形が出来上がってきて、皇后杯もラッキーの連続でしたが準優勝することができました。レギュラーシーズンを2位で通過したことで、今はチームとしてもチャンスだと思っていますので、ぜひトップを目指して戦いたいと思います。

第19回Wリーグ プレーオフ《クォーターファイナル》

勝利チーム ヘッドコーチコメント要旨



トヨタ自動車 アンテロース

(レギュラーシーズン 3位)

■ジェームス・ダンカン ヘッドコーチ

Q. クォーターファイナルの戦いを振り返って

A. まず初めに、本日はとても良い試合になったと思うので、対戦相手の三菱電機にもおめでとうと言いたいです。もちろん、最後の最後までかなりプッシュされてすごい戦いになったので苦しかったです。この2～3週間チームに言い続けていたのは私たちのチームは諦めないということ。それがチームカラーになっているので、最後に勝敗として現れたのではないかと思います。第4Qにディフェンス力が上がってきたので相手のオフェンスを止めることができたのと、オフェンスの遂行ということが上手くいったと思います。あとは、ベンチプレーヤーの活躍が大きかったというのが事実です。本当にチームのみんなを誇りに思います。またここからの一週間、セミファイナルに向けて準備をして挑みたいと思います。

Q. 短期決戦となるがどのような準備をして臨むか

A. まずこの時点でファイナルのことは何も考えていません。とりあえず、次戦のセミファイナルの一勝にフォーカスを当てています。これからしっかりゲームプランを考えて遂行することです。もちろん、セミファイナルに勝った後にはファイナルのことを考えていこうと思います。ただ、まず次戦で一勝をしないとその次もないので、しっかりとセミファイナルにフォーカスを当てていきたいです。

Q. 自身のチームで期待している選手

A. もちろん能力のあるチームだということは分かっています。状況によっては何人もの選手が活躍するというのも目に見えています。例えば、今日のスタッツで言うと馬瓜ステファニーのベンチからの活躍が本当に大きな貢献度となりました。ディフェンスもとてもアクティブに動いていましたし、得点も何点が挙げています。#24 栗原に関しても、オフェンスは少し苦戦していましたが、ディフェンスやディフェンスリバウンドまでしっかり取ってくれたことが本当に大きかったです。近藤に関してももちろん、大きな活躍をしたと思います。どの選手がというよりも、能力のある選手が多いので、それぞれの選手がピークまで達せられるように努めています。今シーズンは全員がしっかり自分たちのピークに達するということがまだできていないので、これからもピークに持っていけるようにしたいです。

Q. セミファイナル/ファイナルに挑む意気込み

A. (インタビュー時点では対戦相手が未定だったため) どちらのチームになってもかなり大変な試合になると思います。繰り返しになりますが、私たちのフォーカスは良い習慣をつけてそれをしっかり実行することです。でも、本当に正直に言うと、来週のことというよりは今この試合を勝利したことに喜びを感じ過ぎています。また明日から、次の対戦相手にフォーカスを当ててやっていきたいと思っています。